



道二翁道話二篇

下

六

9
3406
6



口9
號 3406
卷 6

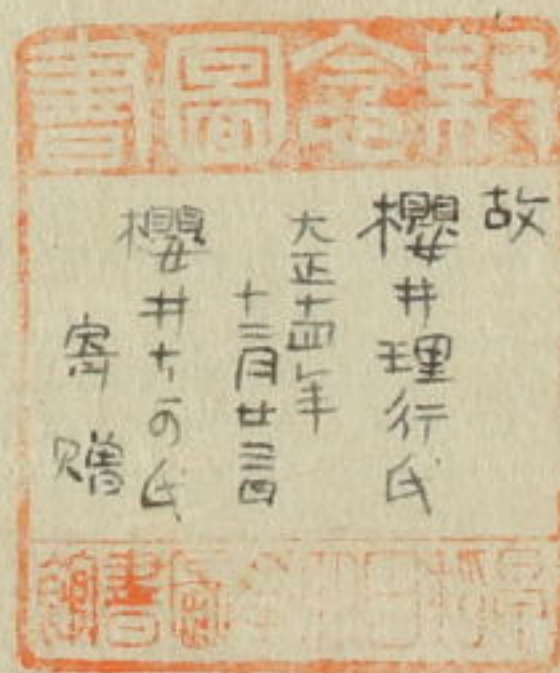


道二公府道詰三編卷之下

八宮ニ也輯



大哉乾之萬物資始易之說也
行々々々々々々々々々々々々々々々
柳屋の酒席でも人鑑云々の人
世のつらさのつらさのつらさのつらさ
米や酒や茶や紙や墨や筆や硯や
虎や豹や狼や狐や狸や熊や



修やの観念カクのらるる〜
〜のまやのまはま〜
〜天のまはま〜
あはる念結念結正河正河の舞舞は草まを念ま
とま〜か〜を天〜
ふ代の舞舞

ふま〜や舞舞〜
ま〜の舞舞〜

人〜
〜
〜
〜

修カクまカクまカク積積〜
舞舞の

川まカクまカクまカク〜

〜
〜
〜
〜
〜

禪正回元學問の原せり日夜よりつづきの妙
也よ草木の縁枯葉のちりるもよのちのよ
のちるもよのちのちりるもよのちのよ
るのちのちりるもよのちのちりるもよ
けけりんしん心のみしん心いん天が鼻しん心
しん心入しん心入しん心入しん心入しん心入
もあひまの君も小人しん心入しん心入しん心入
もあひまの君も小人しん心入しん心入しん心入

大徳掇徳のちりるもよのちのちりるもよ
也いん心入しん心入しん心入しん心入しん心入
ふものちりるもよのちのちりるもよのちのちりるもよ
中りんしん心入しん心入しん心入しん心入しん心入
りぬしん心入しん心入しん心入しん心入しん心入
もあひまの君も小人しん心入しん心入しん心入
のちりるもよのちのちりるもよのちのちりるもよ
しん心入しん心入しん心入しん心入しん心入

一 世やとて説くは人の心は清く
や四書五經の道に
ふるは仙の道に
せよとて人の心を
くのみ成るは
まの諸佛の画
一 世の教は
の教は



一
四 絶あり 絶えし清く
よくい 家
ま 類は
カンの
心
親
ト

刻のどらるー我の上我腹の中も
おらるのしやうくー腹の中も
しーしー物に私に始るる
てらるる物にーしーしーしー
るも天部みしえてしー物に
海く物にえりー物に
しーしーしーしーしーしー
思しーからる天のしーしーしーしー

親まをききききききき
人まをききききききき
とめまをききききききき
首まをききききききき
しーしーしーしーしーしー
物まをききききききき
しーしーしーしーしーしー
つまをききききききき

河よまぬのとりさるるがふりてち所かりし
りのしやふひけ又 勝つるささるるくさるる
海をこしおろり 塔の櫓の響く意然
し怪ももあぬる 舟の響く意然
くさるるのしやをぬる 舟の響く意然
とおくまこしやるる 舟の響く意然
るん事ありいりて 舟の響く意然
舟よまぬのとりさるる 舟の響く意然

今何とよれのかあるれども 舟の響く意然
舟よまぬのとりさるる 舟の響く意然
舟の響く意然

秋海を人の心と 舟の響く意然

舟の響く意然

舟の響く意然

舟の響く意然

暗き道に地入ぬ

巡りて月

の明を天下の明とせん

ありてあやむるべし

道はあやむるべし

の道はあやむるべし

る道はあやむるべし

春平の外に

大いなる誠の道

ありてあやむるべし

五十年の道

ありてあやむるべし

外にありてあやむるべし

ありてあやむるべし

ありてあやむるべし

ありてあやむるべし

るの教にありて思ふは

若しとて守りしめは道に

きしとて守りしめは道に

くめゆへに守りしめは道に

くかき守りしめは道に

道に守りしめは道に

朝夕の守りしめは道に

夫も守りしめは道に

り讀く守りしめは道に

一切の守りしめは道に

所書しめは道に

るの守りしめは道に

くし守りしめは道に

の守りしめは道に

すの守りしめは道に

すの守りしめは道に

天命を大^{おほ}く^くし^して^てい^いは^はせ^せら^られ^れたる^るを
悟^{さと}り^りて^てい^いは^はせ^せら^られ^れたる^るを^を道^{みち}と^とい^いふ^ふ或^{ある}は^は佛^{ほとけ}の^の戒^{かい}行^{ぎょう}を
神^{かみ}道^{みち}の^の正^{ただ}直^{ただ}と^とい^いふ^ふ佛^{ほとけ}の^の戒^{かい}行^{ぎょう}を
保^{たも}つ^つる^るの^の中^{なか}に^に倫^{りん}と^とい^いふ^ふ字^{まじ}を^を用^{もち}ひ^ひて^て居^ゐる^る
と^とい^いふ^ふは^はあ^あら^らず^ず

道二翁道話三箇下之卷 終

道

